

チャイコフスキー

アノ協奏曲 第1番

フマニノフ

交響曲 第2番

日•祝 14:00開演

東京芸術劇場コンサートホール(池袋)

Sunday, 11th February 2018, 14:00 Tokyo Metropolitan Theatre S¥7,500 A¥5,500 B¥4,500 C¥4,000

読売日本交響楽団 第101回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ

横浜みなとみらいホール(横浜)

Monday, 12th February 2018, 14:00 Yokohama Minato Mirai Hall S¥7,500 A¥6,500 B¥5,500 C¥60000 お申し込み・お問い合わせ **説響**チケットセンター0570-00-4390 (10時~18時・年中無休/年末年始を除く)

巨匠ユーリ・テミルカーノフが読響でラフマニノフの「交響曲第2番」を指揮する。彼の客演は今度が7回目だが、意外にも、読響とこの曲を演奏するのは、これが最初だ。

ラフマニノフの「第2交響曲」といえば、彼の創作力が 最も充実していた時期の作品であり、彼が管弦楽のため に書いた作品のうちでも最高傑作と呼ばれる大作であ る。重厚壮大なスケール感のうちに、深い陰翳と憂愁の 情感をたたえ、特に第3楽章の耽美的な叙情は全曲中の 白眉だ(その主題はCMやポップスにも使われていて、いっ そう広く知られている)。巨匠の指揮に、いま絶好調の読 響がどう応えるか。見事な演奏が期待できよう。

テミルカーノフは、以前はテンポや強弱を誇張するなど、かなり個性的な指揮をしていたものだが、円熟の極みに至った現在では、堂々たる風格と滋味に富む、王道を進む音楽をつくることでも有名である。指揮も、ほんのわずかな身振りのみ。それだけでオーケストラを燃え立たせ、咆哮させ、表情豊かに歌わせるのだ。まさに巨匠の至芸である。

ところで、プログラムの第1部で演奏されるチャイコフスキーの「ピアノ協奏曲第1番」だが、意外なことにこの曲のほうも、テミルカーノフが読響で指揮するのは今回が初になる。しかも今回のソリストは、ニコライ・ルガンスキー。豪快な演奏にかけては世界屈指のピアニストである。これはスリリングな演奏になるはず。「ピアノとオーケストラの決闘」と異名を取るこの曲での、彼と、テミルカーノフ指揮する読響との、丁々発止の応酬が聴きものだ。



**試現サービス**東京芸術劇場、横浜みなとみらいホールには一時託児施設があります(各会場のホームページをご覧ください)。

日本 (東京 15 回り) 日本 (中国 16 回り)



ntt.com



## Transform your business, transcend expectations with our technologically advanced solutions.

想像を超えるスピードで進化するAIやビッグデータ、loTの世界。今、求められているのは、 既成の枠組みや概念を取り払い、全てを変革する力。 私たちはその力を、スマートなICTソリューションで届けたい。 お客様の期待を超えて、

ビジネスの新しい未来をかなえるために。